

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成29年度技術情報第9号（ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫）について（送付）

チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）について情報を取りまとめましたので送付します。今後の発生に注意してください。

平成29年度技術情報第9号

- 1 農作物名**
ダイズ
野菜類（イチゴ、根深ネギ、サトイモ、オクラ、キャベツ、サヤインゲン、サヤエンドウ等）
花き類
- 2 病虫害名**
チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）
- 3 予報内容**
 - (1) 発生地域 県本土、熊毛地域
 - (2) 発生量 やや多
- 4 予報の根拠**
 - (1) 9月中旬に行った巡回調査でのハスモンヨトウ発生ほ場率は、キャベツで56%（平年33%）と平年よりやや高く、発生程度の高いほ場も認められた（表1）。
一方、達観調査ではあるが、ダイズ等でシロイチモジヨトウの寄生も認められた。
 - (2) 県農業開発総合センター（南さつま市金峰）及び同大隅支場（鹿屋市串良町）のフェロモントラップでのハスモンヨトウの誘殺数は、8月以降、平年より多い傾向にある（図1）。
 - (3) 同様にシロイチモジヨトウの誘殺数は、9月中旬にかけ増加傾向にある（図2）。
 - (4) 本年と同様に8月に降雨が少なくフェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数の多かった平成21年（病害虫発生予察注意報第3号発表）は、9月以降被害が多発した（図3）ことから、今後も増加が懸念される。
- 5 防除上注意すべき事項**
 - (1) 若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、ほ場を見回り早期発見に努める。
 - (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
 - (3) 老齢幼虫に対する薬剤の効果は低いので、若齢幼虫のうちに防除する。
 - (4) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
 - (5) 各系統剤の殺虫効果については、平成29年度技術情報第10号を参考にし、同一系統剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。

表1 巡回調査におけるハスモンヨトウの発生状況

作物名	発生ほ場率(%)			本年発生程度別ほ場率(%)					概評
	本年	前年	平年	甚	多	中	少	無	
キャベツ	56	39	33	0	0	6	50	44	やや多
ダイズ	92	83	93	0	0	58	33	8	並
キク	15	-	5	0	15	0	0	85	-
キク*	20	10	13	0	15	5	0	80	やや多

* キク下段はチョウ目害虫の被害状況の調査（被害はハスモンヨトウが主体）

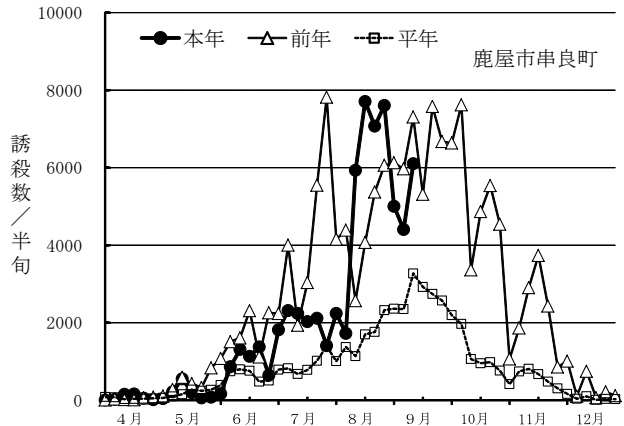
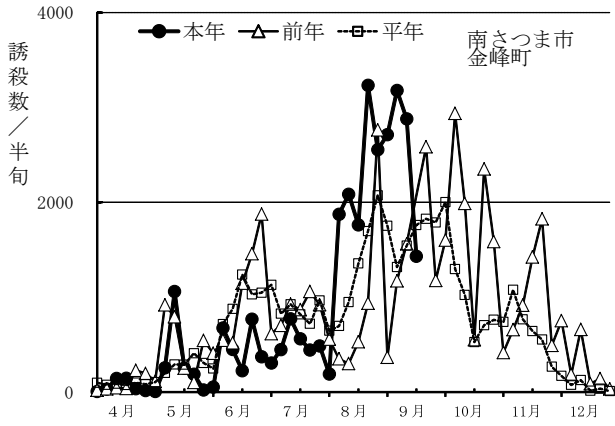


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（29年9月21日現在）

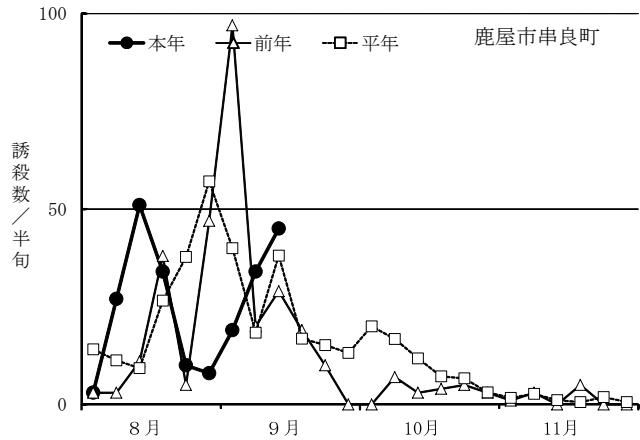
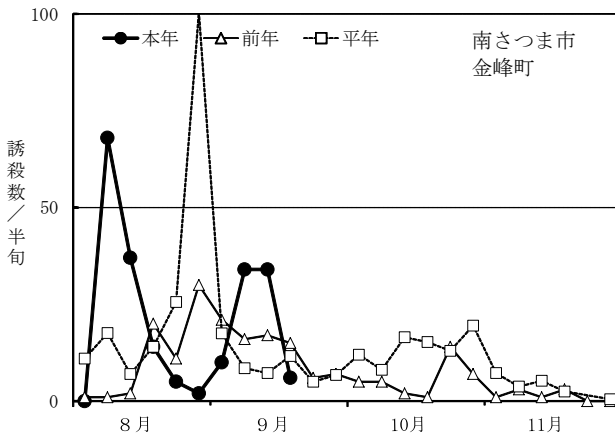


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況（29年9月21日現在）

【参考】

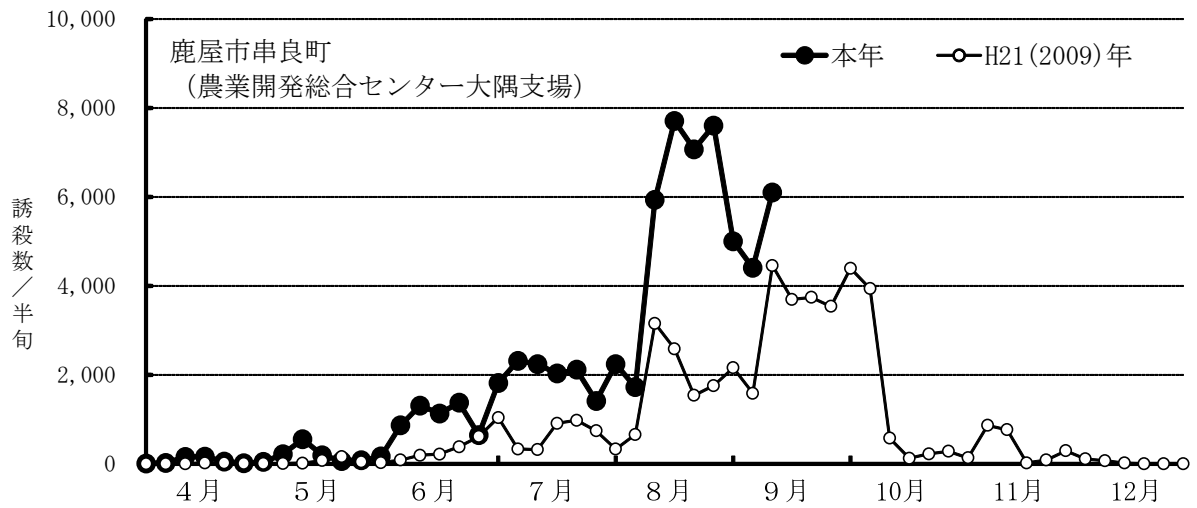


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（平成21年との比較）



図4 ハスモンヨトウ（左：老齢幼虫，右：成虫）
黒褐紋（矢印）がハスモンヨトウにはあるが、シロイチモジヨトウにはない。



図5 シロイチモジヨトウ（左：老齢幼虫，右：成虫）